第３章　調査の内容

１．調査の概要と土層堆積（図３～７）

調査地は、大山より派生し日本海側へ放射状にのびる低丘陵上に位置する。丘陵上の平坦部は北方向へゆるやかに傾斜しており、標高は調査前で南側が概ね62m、北側が55mを測る。ただし調査地北半は削平を受けていることが窺える。丘陵斜面部は北東部・西側が調査範囲に含まれている。表土剥ぎ実施前、調査地中央部北寄りに平面形がコの字状を呈する溝を確認した（図３・７）。コの字部分の長辺は約38m、短辺は約28mで、溝の幅は約2.5m、深さは約30～60㎝を測る。表土が溝を埋めていることから古い時期のものではないようである。近隣に住む方によると、明治期頃当地は畑地として利用していたとのことで、その頃に掘削されたものかもしれない。表土剥ぎ完了後、図３のようにトレンチを設定し、主要な土層堆積をⅠ～Ⅸ層に分層した（図４～６）。以下、各層堆積状況の概要を述べる。

調査地には樹木が繁茂していたため、根による撹乱を著しく受けていた。表土下に堆積するⅠ層（にぶい褐色土：Hue10YR５／３）上から掘り込まれる遺構の存在は想定できたが、土壌化が進行しており、遺構検出が困難であった。そのため遺構検出はⅠ層下のⅡ層（黄橙色土：Hue10YR７／８）、Ⅲ層（明黄褐色土：Hue10YR６／６）、Ⅴ層（黄橙色土：Hue7.5YR７／８）上面において行った。しかしⅡ層・Ⅲ層は調査地中央部付近で部分的な堆積が認められるにとどまり（図７）、調査地北側・南側や丘陵縁辺部は表土及びⅠ層直下が基盤層であるⅤ層となる。そのため遺構の多くがⅤ層上面で

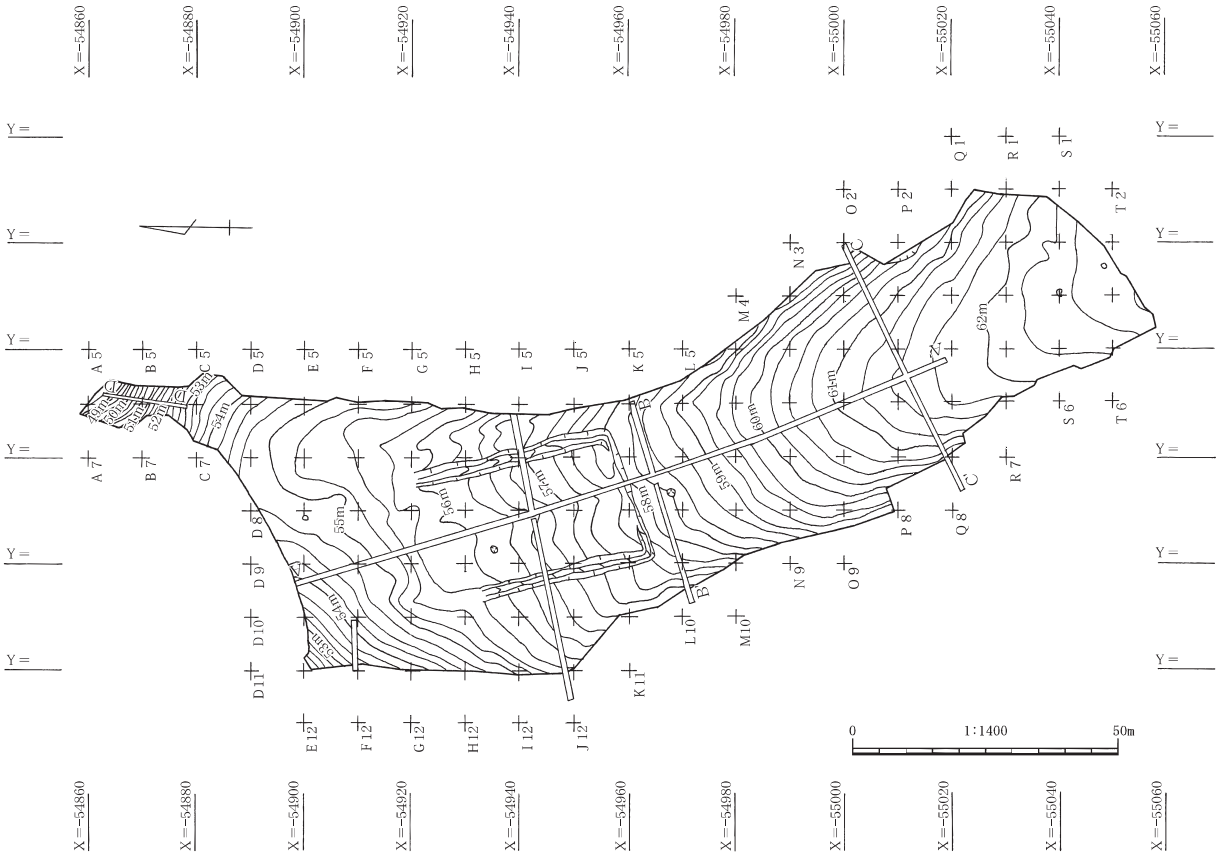

図３　調査前地形およびトレンチ配置

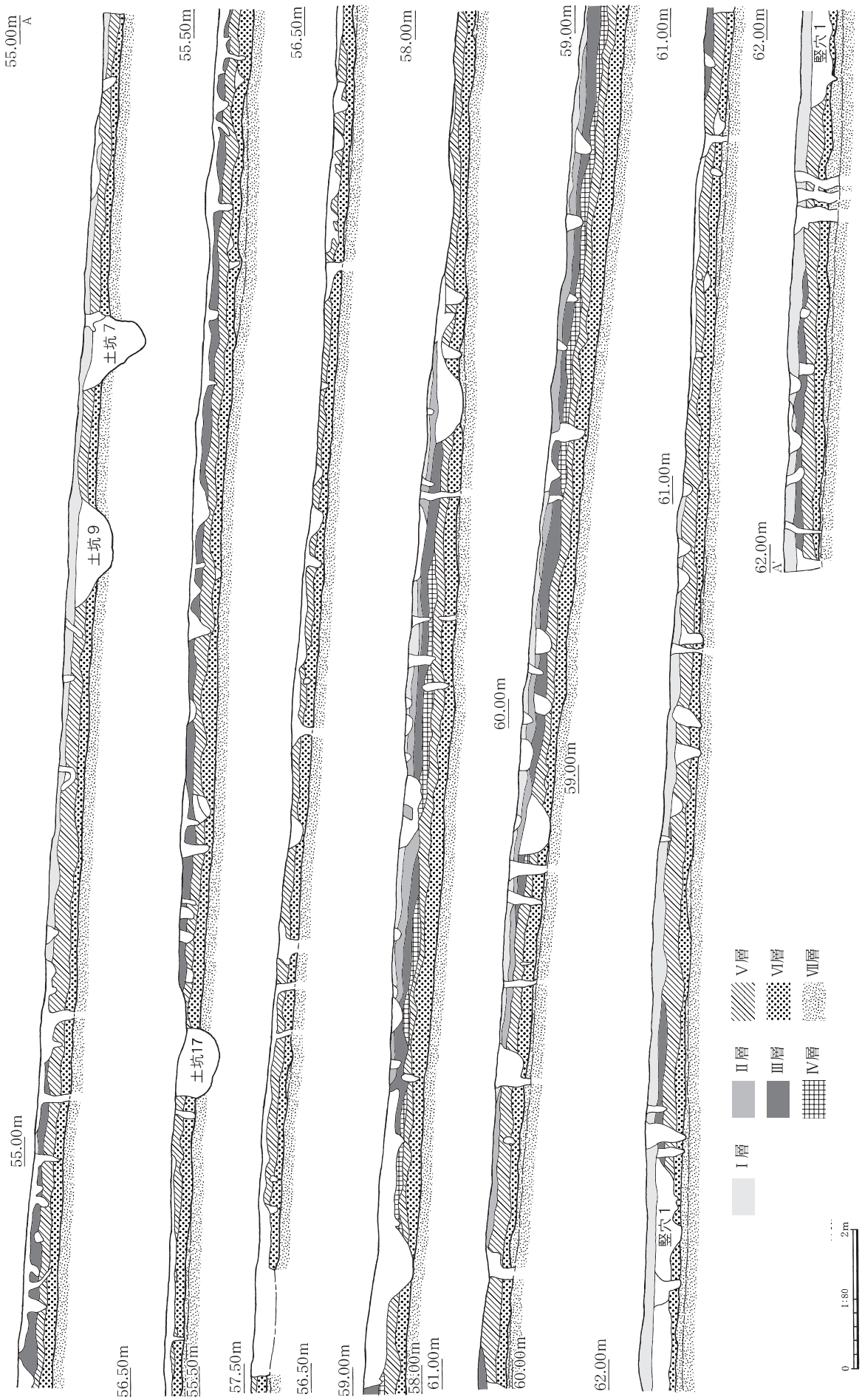
55.00m
A
55.50m
56.50m
58.00m
59.00m
61.00m
62.00m
土坑7
土坑9
土坑17
竪穴1
55.00m
56.50m
55.50m
57.50m
56.50m
59.00m
58.00m
61.00m
60.00m
60.00m
59.00m
62.00m
61.00m
62.00m
A'
竪穴1
Ⅰ層
Ⅱ層
Ⅲ層
Ⅳ層
Ⅴ層
Ⅵ層
Ⅶ層
0
1:80
2m

図４　調査地土層断面（１）

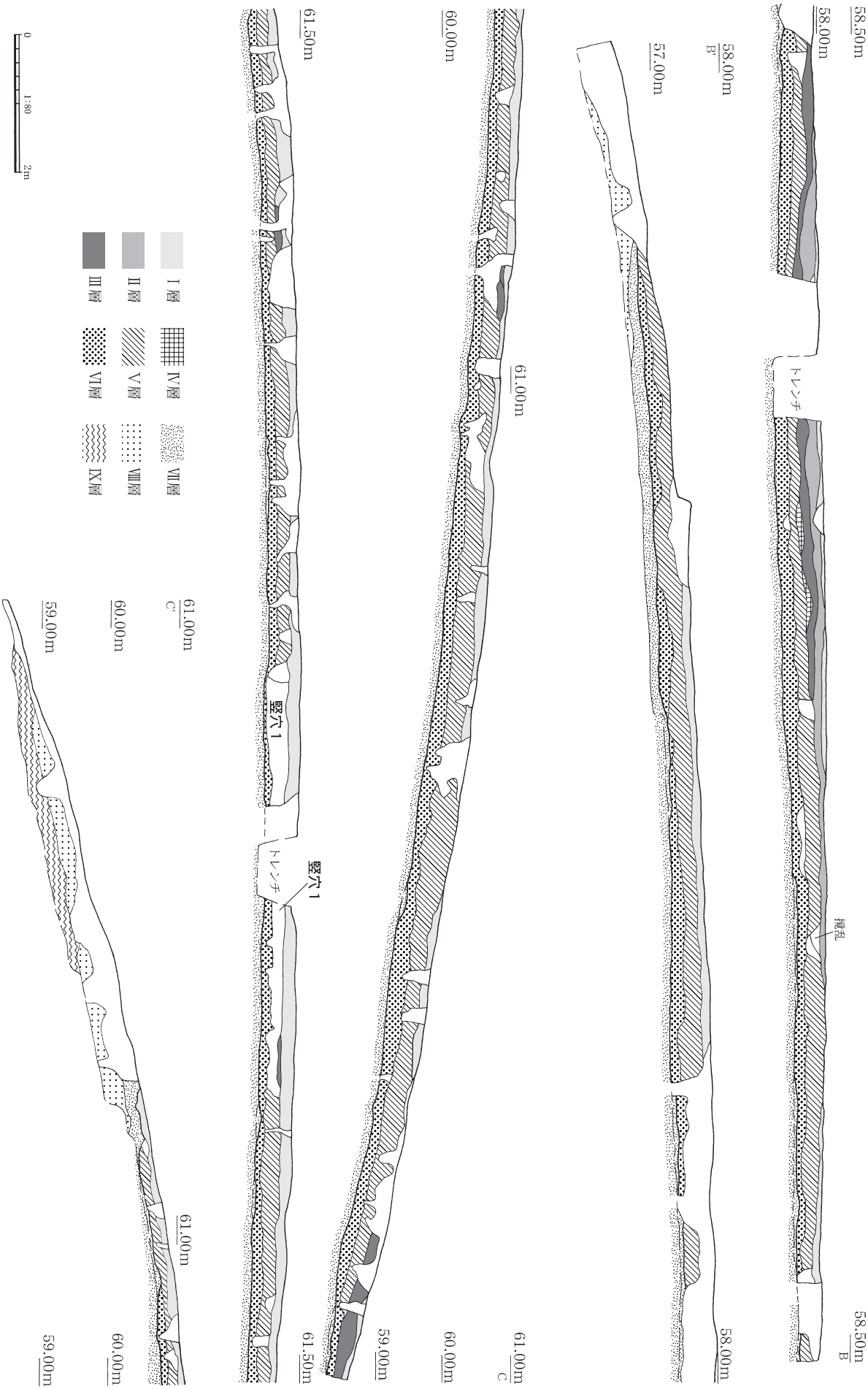
58.50m
B
58.00m
B'
57.00m
61.00m
C
60.00m
59.00m
61.50m
C'
トレンチ
撹乱
竪穴１
I 層
II 層
III 層
IV 層
V 層
VI 層
VII 層
VIII 層
IX 層
0
1:80
2m

図５　調査地土層断面（２）